

List of exhibits

No	Title	Artist	Material	Period / Century	Collection
1	Balmy Breeze	TOMITA Keisen (1879-1936)	color on silk	Japan, ca. 1910	
2	Wisteria	IKEDA Koson (1801-1866)	color on silver-leafed paper	Japan, 19th century	
3	Flying a Kite	Sengai Gibon (1750-1837)	ink on paper	Japan, 19th century	Ishimura Collection
4	Sugawara Michizane, Diety of Literature	Sengai Gibon (1750-1837)	ink on paper	Japan, 19th century	
5	Mongol Invasion of the 13th century	Sengai Gibon (1750-1837)	ink on paper	Japan, 19th century	
6	Fujin, God of Wind		color on wood	Japan, 14th century	Matsunaga Collection
7	□ Futen (Vāyu), Diety of Wind		color on silk	Japan, 16th century	Buddhist Art from the Tokoin Temple
8	○ Idaten (Skanda)	Traditionally attributed to Muxi (13th century)	ink on silk	China, 13th century	Matsunaga Collection
9	Fragments of Ban (Buddhist Ritual Banner)		silk with embroidery	Japan, 7th century	Matsunaga Collection
10	Standing Zocho-ten (Virudhaka)		gold leaf on wood	Japan, 13th century	Matsunaga Collection
11	◎ Mirror with a Figure of Juichimen Kannon (Ekadasamukha) in Line Engraving on Mirror Surface		bronze	Japan, dated 1134	Matsunaga Collection
12	○ Monochrome Iconography		ink on paper	Japan, 13th century	Matsunaga Collection
13	Hotei, God of Fortune	Attributed to Hu Zhifu (13th century) Inscription by Yanxi Guangwen (1189-1263)	ink on paper	China, 13th century	Matsunaga Collection

風を見る

会期 2020年11月17日(火)-2021年1月31日(日)

会場 古美術企画展示室



出品No.11 線刻十一面觀音鏡像

「赤いマフラーなびかせて…」とは、某ヒーローアニメの主題歌の一節ですが、風あるいはそれになびく布を見ると、自然と胸に熱い思いがこみ上げてきます。こうした心の動きは今に始まったことではなく、古来、人々は風に聖性を見出し様々に造形化してきました。

眼で視ることができない風をどのように表現するのか？その試みを探ることで、わたしたちが風に抱いた思いの一端を明らかにします。

風を見る・聴く・嗅ぐ

冒頭でも述べたように風には実体がなく、その姿を眼で視ることはできません。そのため、絵画や彫刻、工芸といった視覚芸術によってその存在をあらわすためには、様々な工夫を必要とします。

最も分かりやすいのは、何かが動く、変化するという現象を通して風の存在を認識させるという方法です。

例えば、《青嵐》(作品1)は、中国の古都・杭州の名勝である西湖を描いたと思われますが、湖上を進む舟の帆は膨らみ、木々の梢も揺れるなど画中に風が吹き渡る様子があらわされます。全体に水気を多く含んだ絵の具が用いられており、湿気を帯びた温かな風を思わせます。

一方、《藤図屏風》(作品2)の風は違った趣といえます。一見しただけでは風の存在を感じ取ることは難しいですが、垂れ下がる花房の先端はわずかにしなりをみせており、微かではありますが確かに風が吹いています。背景の銀地は夜の月明かりを思わせ、作品1に比べると涼やかな風を感じさせます。

また、音や香りによって風の存在を認識することもあります。《凧あげ図》(作品3)は凧あげに興じる童子を描いたものですが、傍らには「吹け吹け、ぶぶぶぶぶぶ」と書き添えられています。「ぶぶぶ」という擬音語が風の存在を強調する効果をあげており、音によって風をあらわす好例といえるでしょう。

そして、香りによって風を想起させる例としては《天神図》(作品4)があげられるでしょう。本図には、学問の神様である天神様こと、菅原道真が梅を手にした姿で描かれます。本図が、道真が大宰府へ左遷される際に自分が大切にしていた梅の木に対して詠んだ歌「東風吹かば 匂ひおこせよ 梅の花 主なしとて 春を忘るな (春な忘れぞ)」を下敷きにしていることは申し上げるまでもないでしょう。

これらの作例を通して、人々が風の存在を捉るために視覚や聴覚、嗅覚といった様々な感覚を駆使してきたことが分かります。

人智を超えた風

風は雲をよび、雨を降らせます。これらは恵みを与える一方で、強すぎる風は計り知れない被害をもたらします。そのため人々は風を神格化し、五穀豊穣や航海安全、そして戦の勝利(作品5)などの祈りを捧げたのです。

風にまつわる神は世界各地に存在しますが、日本で

は風神(作品6)がメジャーな存在でしょう。持物は失われていますが、かつては風を蓄えた風袋を両手で担ぐ姿であったようです。

また、十二の方角を司る仏教の護法神である十二天の中にも、風を神格化した風天(作品7)がいます。いずれの作品においても衣裳が翻るなど風の存在を強く意識した表現が用いられています。

他にも、俊足として知られる韋馱天(作品8)や自由に空を飛行する天人(作品9)など、神仏が超人的な力を発揮していることを示すために風を表現することもあります。

心に巻き起こる風

このように仏教美術において風を感じさせる表現はそれほど珍しいものではありません。ですが、作品によっては自然現象としての、あるいは、何らかの動きに伴う風とはやや趣のことなる表現がみられることがあります。

《線刻十一面観音鏡像》(作品11)をみてみましょう。観音像じたいは足を組んで座るという静かな坐たずまいですが、冠から垂れる紐や肩から羽織った天衣(帶状の布)は強風にあおられたかのように舞っています。本作をはじめ、風の表現を伴う作品の中には、なぜそこに風が吹いているのか?という疑問に合理的な回答が用意できないものも少なくありません(作品10-13)。

この疑問に答えるためには、こうした風の表現が当時の人々にどう映ったのかを考える必要があります。例えば、経典には仏像の前で祈りを捧げた際に起こる奇跡として、像が動くことがしばしば説かれます。これを踏まえるならば、仏教美術にみられる風の表現は、人々に対して自身の祈りが像に伝わったことを印象付ける効果があったと考えられます。

翻って、鑑賞者の視点からこの風の表現を捉えるならば、祈りを実現させたいという真摯な思いが像に風を吹かせているともいえます。すなわち、この風はわたしたち自身の心に巻き起こった風と捉えることもできるでしょう。

さて、いよいよ冒頭で触れた「わたしたちは赤いマフラーをなびかせるヒーローになぜ心を熱くするのか」という疑問に戻りましょう。この問いには次のように答えることができるでしょう。「風が心を熱くするのではない。わたしたちの熱い心が風を吹かせているのである。」

出品作品リスト

・◎は重要文化財、○は重要美術品、□は福岡県指定文化財を示します。
・都合により展示作品を変更する場合があります。

No	作品名	作者名・産地	品質	時代・世紀	コレクション
1	青嵐	富田溪仙 (1879-1936)	絹本着色	1910年代	
2	藤図屏風	池田孤村 (1801-1866)	紙本銀地着色	江戸時代 19世紀	
3	凧あげ図	仙厓義梵 (1750-1837)	紙本墨画	江戸時代 19世紀	石村コレクション
4	天神図	仙厓義梵 (1750-1837)	紙本墨画	江戸時代 19世紀	
5	蒙古襲来図	仙厓義梵 (1750-1837)	紙本墨画	江戸時代 19世紀	
6	風神像		木造、彩色	鎌倉時代 14世紀	松永コレクション
7	□ 風天図		絹本着色	室町時代 16世紀	東光院仏教美術資料
8	○ 韋馱天像	伝・牧谿(13世紀)	絹本墨画	南宋時代 13世紀	松永コレクション
9	繡仏裂		絹製、平織、刺繍	飛鳥時代 7世紀	松永コレクション
10	増長天立像		木造、漆箔	鎌倉時代 13世紀	松永コレクション
11	○ 線刻十一面観音鏡像		青銅製	長承3年(1134)	松永コレクション
12	○ 白描図像		紙本墨画	鎌倉時代 13世紀	松永コレクション
13	布袋図	伝・胡直夫(13世紀)、 偃谿広聞(1189-1263) 贊	紙本墨画	南宋時代 13世紀	松永コレクション